

2018年3月1日 Vol.113

社員の品格を高める行動規範

Mマート(4380)に続いてジェイテックコーポレーション(3446)と2018年のIPO市場も幸先の良いスタートを切ったようです。全体相場が不透明な中で短期のリスクマネーが入り込んできたと見られます。このまま3月の14銘柄にもつながっていくのか注目されます。

こうしたIPO時の熱気は時間とともに忘れ去られる運命にあるのかも知れませんが、そうした熱気を蘇らせるためにもIR活動は不可欠です。また単純なIRではなかなか投資家の支持を得られません。過去1年のIPO銘柄の中で決算説明会とともに新たな中期3カ年計画を前向きに打ち出した企業があります。数値目標を掲げるとともに人的や組織的な改革、目指す方向性をユニークに打ち出したズーム(6694)の事例を本日はご紹介したいと思います。

同社は音と音楽に特化したアーティスト、クリエイター向け製品を中国においてファブレスで生産し世界市場で販売している有力企業。同社株は昨年3月にIPOしてからおよそ1年を経過しようとしています。公開価格1520円に対して初値は2278円でしたが、その後1421円まで売られるなど認知度が低く短期投資家の売りが見られました。今週27日、野村証券で開催された説明会では前期決算、今期決算見通しのほか第2次中期3カ年計画についての説明がありました。

R&D型企业として開発のスピードアップは当然のことなのかも知れませんが、印象に残ったのは社員の品格を高めるための行動規範5か条です。その5か条とは

1. 立場によって主義主張を変えない・・・部門や職位に依らず会社の利益最大化を図るとともに、「人として」是非を判断する。
2. 悲観的楽観主義者として行動する・・・目標は「何とかなる」と楽観的にとらえ、その実現には「もしかしたら」と悲観的に取り組む
3. 問題には「なぜ？」を3回繰り返して対策する・・・表面的な人為的ミスでも、その背景を理解し、さらにその背景が生じた原因を探る
4. 仕事の完成度に対して安易に妥協しない・・・「まあ、いいか」という妥協と格闘し、日程、予算、制度などの制約の中で最善を尽くす
5. 「させていただきます」と言わない・・・指示だから、決まったので、という発想ではなく、自分で納得して、自分の意思で、仕事をする

といったこと。これらの奥深い行動規範を掲げた同社は創業から35周年を迎え、ブランドの持続性の確立を図り、2020年の売上高100億円、営業利益7.5億円を目指しています。

(東京 IPO コラムニスト 松尾範久)